

特集 韓国のグループ企業との協業～「ありたい姿」実現に向けて～

保土谷化学グループは、1916年に、日本で初めて電解法苛性ソーダを製造する企業として誕生した後、時代のニーズに応え、絶えざる革新を通じて、事業の拡大・成長に取り組んできました。そして近年は、目覚ましくグローバル化する経済に対応するため、国境を越えた開発・営業体制の構築に努めております。特に韓国への投資や韓国との人材交流を図ることで、さらなる革新や事業の拡大・成長につなげてまいります。

グローバルな研究体制

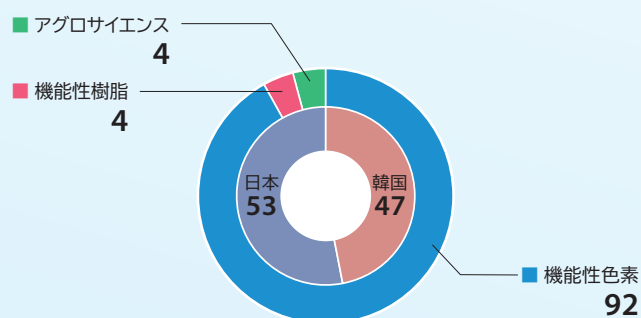
保土谷化学グループは、急速に市場が拡大する有機ELディスプレイに注目するにあたり、その中心的大手パネルメーカーが競う韓国での開発体制の構築に、特に注力しています。韓国市場に開発拠点を設け、日本国内と連携することで、有機EL材料の網羅的かつ迅速な提案を実

現し、ディスプレイの未来に貢献してまいります。さらに、有機ELを中心として培った独自の技術・ノウハウを応用することで、今後成長が期待されているバイオ・半導体材料の開発にも着手し、韓国での開発体制の特色を活かした、新たなポートフォリオの実現にもつなげてまいります。

地の利を活かした韓国の研究開発

保土谷化学グループは、韓国での開発体制構築を重視することで、基礎出願においては、特許出願件数の比率で韓国側の占める割合が大きくなっています。今後も、韓国での開発体制を重視してまいります。

2022年度～2024年度の特許出願件数比率(%)
(国別・セグメント別)



日本と韓国の人材交流制度について

保土谷化学グループは、韓国での体制構築・深化にあたり、グループ全体として人材交流の活発化に取り組んでいます。

人材開発の観点からは、日本の若手研究員を韓国へ短期派遣し、グローバルな視点で新しい技術や知識を学び自らの業務に活かすべく、現地実習を行っております。研究開発部門では、現在、複数名の日本人研究員が韓国に赴任・勤務しており、韓国の研究員と活発にコミュニケーションをとりながら、長期にわたる目線で研究開発業務に取り組んでいます。さらに、グループ全体での研究成果発表会では、韓国のスタッフが来日して最新の研究トピックを共有しており、その後は、情報共有やグループとしての一体感の深化のために、親睦を深める場も設けています。事業部門についても開発部門と一体となり、マーケットで求められる品質・性能を常にフォローし、日韓共同で開発



営業に関与しております。

今後も、このような活発的な人材交流活動を通じて、事業環境に対応した体制構築・深化に努めてまいります。